

CONTENTS 目次

- 2 特集 チイキノカタチ
- 8 やいたのみなさんコンニチハ・ヤイタゴハン ほか
- 10 子育てひろば・図書館へGO！ ほか
- 12 今月のニュース&トピックス
- 17 はつらつ通信
- 18 市からのお知らせ
- 32 クイズ&アンケート・編集後記

COVER 表紙の写真



表紙の写真は、ひまわりスクールの皆さんに協力いただき集合写真を撮影したものです。ひまわりをイメージした写真に仕上げるために、360度カメラを使用。慣れないカメラ操作に苦しみながらも笑顔の絶えない楽しい撮影となりました。

乙畑ひまわりスクール開設10年記念式典の様子は、矢板市公式YouTubeチャンネルからご覧ください。



POPULATION 人口(2月1日現在)

30,520人 (△57)	出生	14人
男 15,193人 (△18)	死亡	51人
女 15,327人 (△39)	転入	57人
13,373世帯 (△9)	転出	77人
( )内は1月1日との比較	※住民基本台帳をもとに算出	
△は減		

特集 チイキノカタチ



「10年も続けることができるのは、夢にも思わなかった」、そう振り返るのは、ひまわりスクールの立ち上げに尽力した市村さんです。少子高齢化、人口減少、価値の多様化…。さまざまな要因が重なり、乙畑小学校の当時の卒業生は2人まで減少していました。

その頃行政区長をしていた市村さんは、「このままでは地域がバラバラになってしまう」と危機感を覚え、「地域の親御さんの助けになれ

ば」と放課後子ども教室「乙畑ひまわりスクール」(以下、ひまスク)の立ち上げを提案しました。

市村さんを筆頭に無我夢中で走り続けた乙畑小学区の地域活動は、のちに各種表彰を受賞し、文科省が推奨する「学校を核とした地域づくり」の優良事例として評価されることとなります。

今号では、地域に笑顔と豊かさを生み出したひまスクの活動を通じて、地域の在り方について考えます。

ひまわりスクール代表 市村 謙作 さん

放課後子ども教室とは？

空き教室などを利用して、放課後、子どもたちにさまざまな体験やふれあい活動の場を提供する事業。スタッフは地域のボランティアで、地域の協力とともに運営する生涯学習活動です。

【ひまわりスクールのあゆみ】

- 2014年 乙畑ひまわりスクール開校
- 2018年 やいたみんなのつどい事例発表
- 2019年 県教育委員会主催 「放課後活動指導者研修」において事例発表 県青少年育成県民会議表彰 「子ども育成・憲章功労団体」として受賞
- 2023年 開設10年記念式典

祝 乙畑ひまわりスクール 開設10年記念式典



祝 開設10年







# ひまスクのにぎわいは地域の力 みんなが笑顔になれる場所

子どもの居場所づくりとして始まったひまスクは、いつしかかけがえのない「地域の居場所」へと変化していきました。そしてその思いは、さまざまな世代へつながり、この地域の笑顔を生み出す「チイキノカタチ」を創り出しました。



私もいつかは地域の力に  
大人も子どもも学べる場

ひまわりスクール保護者  
小林 靖幸 さん

子どもたちが放課後寂しい思いをせず過ごせることで、私たちは安心して仕事ができます。ひまスクの魅力のひとつは、おじいちゃん、おばあちゃん世代との交流がもてること。スタッフさんから教えてもらうお手玉などの昔遊びは、娘のお気に入りの時間です。子ども同士もみんな仲良しで、上級生が下級生の面倒を見るなど、自然と助け合う小さな社会ができています。

『全員が主役』ひまスクはそんな場です。子どもが地域の宝なら、それを見守るスタッフさんも地域の宝だと思います。子どもにとっても貴重な社会教育の場であり、我々大人にとっても地域で生きることを学ぶ生涯学習の場となっています。子どもが卒業しても支える側の立場としてひまスクに協力していきたいです。



成長を見守りながら  
私も元気をもらってます

ひまわりスクールスタッフ  
柄木田 啓子 さん

立ち上げ当初からお手伝いしてきました。ひまスクに参加するようになって、スーパーで子どもたちが話しかけてくれたり、卒業生が成長した姿を見せに来てくれたり、楽しみが増えました。でも運営が軌道に乗るまでは、いろいろな苦労があり、その都度頭を悩ませてきました。そんな困難を乗り越えられたのは、スタッフのチームワークと、子どもたちの笑顔があったからだと思います。子どもたちの元気な姿を見たら全部吹き飛ばんじゃうんです。私にとって、子どもたちの笑顔は元気の源です。時には叱ることもあれば、ほめることもあります。今はわからなくても「地域にも、みんなのことを大切に思っている人がいるんだよ」って、いつか子どもたちに伝わるとうれいそうですね。



ひまスクは第二の家族  
私の大好きなふるさと

ひまわりスクール卒業生  
戸村 花唯 さん

本当のおじいちゃんおばあちゃんのほかに、たくさんのおじいちゃんおばあちゃんがいて、今思えばとても温かい小学校時代を過ごしたと思います。運動会で自分の出番になると、ひまスクのおじいちゃんおばあちゃんたちも「ほら、花唯ちゃん！がんばって！」って応援してくれるのがすごくうれしかったです。今でも地域の方みんなと友達で、外からお嫁に来た母よりも私の方が近所の知り合いが多いんです。

私は今春、小さな頃から夢だった保育士を目指して、大学へ進学します。私が子どもを好きになったのも、この地域で普通の家庭の何倍もの愛情をもらって育ててもらったからかもしれません。ひまスクのように、みんなを笑顔にできる保育士になれるようがんばります。



この地域力は  
市が誇る貴重な財産

元市社会教育指導主事（現東小校長）  
増淵 直嗣 さん

ひまスク立ち上げ時に、市職員としてお手伝いをさせていただきました。当時から、市村会長はじめ地域の大人が子どもたちのために行動する熱量を肌で感じ、ひまスクの成功と発展に確信めいたものを感じていました。今ではスタッフの方々にとってもひまスクが生きがいになっているようなお話も伺います。関わる全ての人に無理のないカタチで子どもよし、保護者よし、地域よしの三方よしのコミュニティが形成されていて、立ち上げ当初の期待以上の成功と成果を収めているものと感じています。今は他校の校長として身を置いています。ひまスクのような活動は学校にとっても大変ありがたい活動です。『学校から安心して子どもたちを地域に帰せる』そんな当たり前が今はとても貴重なんです。





地域という太陽に照らされ、

咲き続ける、乙畑のひまわりたち

地域の子どもは、地域で守る

地域住民が一丸となってその暮らしを楽しむ乙畑小学区の皆さん。人口減少が止まらない今、少子高齢化という深刻な地域の課題と向き合いながらも、地域を未来へつなげるため、活動を続けます。

「地域の子どもは、地域で守る」

これは、市村さんがいつも言っているひまスクの合言葉です。地域の絆を共に育み、世代を超えて未来へつなげる——。

ひまスクは、みんなの居場所としてこれからも地域に笑顔を咲かせます。

今回の取材でたくさんの笑顔に出会いました。少子高齢化・人口減少という課題がある中でも、地域が手を取り合い、活動することでみんなの心は満たされ、互いに豊かになれる——。これはこの地域が見つけた地域活性化の1つのカタチ。人の温もりが育む「やいたらしい暮らし方」なのではないでしょうか。

この先の未来に待ち受ける困難が何であれ、その地域らしいカタチを導き出し乗り越える力、それが地域の力なのかもしれません。